

令和5年度

(令和5年4月1日より令和6年3月31日まで)

# 事業報告書

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

# 目次

第1章	概況	1
第2章	事業の状況	
1.	研究助成金の贈呈	1
2.	高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	2
3-1.	高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2.	国際シンポジウム開催の助成	3
4.	国際講演会の開催	3
5.	AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	3
6.	機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章	管理事項	
1.	会議等に関する事項	
(1)	令和5年度第1回理事会 (通常)	5
(2)	令和5年度第1回評議員会 (定時)	5
(3)	令和5年度第2回理事会 (臨時)	5
(4)	令和5年度第3回理事会 (臨時)	6
(5)	令和5年度第2回評議員会 (臨時)	6
(6)	令和5年度第1回学術委員会	6
(7)	令和5年度第4回理事会 (臨時)	7
(8)	令和5年度第5回理事会 (通常)	8
(9)	令和5年度第3回評議員会 (臨時)	8
(10)	令和5年度第6回理事会 (臨時)	9
(11)	令和5年度第4回評議員会 (臨時)	9
2.	内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	10
3.	内閣府からの連絡事項等	10
第4章	受取寄附金に関する事項	10
第5章	附属明細書	
表1	令和5年度研究助成金受領者名簿	12
表2	令和5年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	15

## 第1章 概況

令和2年初頭の第1波に始まる新型コロナウイルス感染症の蔓延は、令和4年9月の第7波まで繰り返し、令和5年春の収束で5類感染症に移行した3年間、当財団の公益目的事業の運営に大きな影響を与えた。

令和5年度は、ポストコロナの最初の年度として、4年ぶりに7事業全ての実施が可能であった。最重要の公益目的事業であるがん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈などの国内事業は、コロナ禍においても支障なく実施が可能であったが、海外から講演者を招聘し、多数のがん研究者が一堂に会する国際シンポジウムは、延期、中止を余儀なくされ、4年ぶりの実施となった。国際講演会の開催については、令和5年度も引き続き延期となった。特筆されることは、令和5年度学術賞等贈呈式が、総裁常陸宮殿下並びに妃殿下のご臨席の下開催されたことである。常陸宮殿下のお成りは4年ぶりであり、妃殿下と共に成りいただいたのは7年ぶりである。懸案であった研究助成事業の成果を寄附者に報告し、感謝の意を表する催しとして、贈呈式の式典後に初めて学術賞受賞者2名から研究内容をかみ砕いた講演をいただいたことも特筆される。

当事業年度収支の経常収益については、株式配当及び債券利息等収入が合計166,067千円で、前事業年度比3.4%減（前年度171,882千円）であった。前年度に続き当年度も個人からの大口の寄附（10,000千円）があり、公益目的事業への使用が指定された指定正味財産増減の部の受取寄附金は36,374千円（前年度37,976千円）と期初予算の27,000千円を上回る実績となった。当事業年度は、国際シンポジウム開催等の事業を実施する一方、収入面では株式配当が前年度比16,838千円の減少となり、公益目的事業収支の赤字を補填するため、過去に計上済の公益事業資金の一部19,720千円を取り崩した。その結果、当事業年度の経常収益合計は、前事業年度比29.3%増の222,299千円（前年度171,893千円）となった。

経常費用については、研究助成金の贈呈及び学術賞の贈呈等を実施した事業に係る費用に加え、国際シンポジウム開催費用を含め、経常費用合計は前事業年度比37.8%増の227,968千円（前年度165,401千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、5,669千円の赤字（前年度6,491千円の黒字）となった。

## 第2章 事業の状況

### 1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は185件であり、学術委員会における慎重な選考で38件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

学術委員会は、令和5年12月5日（火）に開催され、選考結果は、12月15日（金）開催の理事会で承認された。

学術賞等贈呈式は、令和6年2月22日（木）、パレスホテル東京（東京都千代田区）で挙行了した。

## 2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は13件12名であり、学術委員会における基礎研究、臨床研究領域から各1件の原則に従った慎重な選考の結果、各領域から1件の2名が決定された。

1件当たり本賞の楯と副賞500万円を贈呈した。

受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金の贈呈と併せて行われた。

## 3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業3）

第51回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催した。3日間、講演者31名、討論者130名が一堂に会し、秘密保持誓約のもと未公開データを含む成果発表に対する活発な質疑応答が続き、充実したシンポジウムであった。

### (1) 国際シンポジウム

テーマ：環境ががんの発生とクローン進化に与える影響

会期：令和5年11月14日(火)～16日(木)

会場：パレスホテル東京（東京都千代田区）

組織委員長：津田 洋幸 博士 名古屋市立大学特任教授

組織委員：Allan Balmain 博士 米国・カリフォルニア大学  
サンフランシスコ校

中釜 斉 博士 国立がん研究センター理事長

石川 冬木 博士 京都大学学術研究展開センターセンター長

戸塚 ゆ加里 博士 日本大学薬学部教授

招待演者：海外20名（米国15名 イギリス3名 フランス2名）  
国内11名

討論者：130名

### (2) 中原記念講演賞

第17回中原記念講演は、本シンポジウムの特別セッションにおいて、講演者がオンラインで発表するZoom会議システムで行われ、質疑応答も活発な素晴らしい講演であった。講演終了後、講演者には、記念の楯の送付と副賞50万円が贈呈された。

講演者：Arthur P. Grollman 博士

米国・ストーニーブルック大学薬理学部特別教授

演題：環境発がん、変異シグネチャー、そして合理的ドラッグデザイン

### 3-2. 国際シンポジウム開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業3)

下記の学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第82回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia

テーマ1：クローン性造血がもたらす血液がん・固形がん発症のパラダイムシフト

Chairpersons JCA 坂田 麻実子 筑波大学

AACR Ravindra Majeti 米国・スタンフォード大学

テーマ2：がんの新たな特性としての RNA スプライシング

Chairpersons JCA 吉見 昭秀 国立がん研究センター研究所

AACR Stanley Lee 米国・フレッドハチンソンがんセンター

会期：令和5年9月21日(木)～9月23日(土)

会場：パシフィコ横浜

助成額：500万円

### 4. 国際講演会の開催 (定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業4)

がんに関する講演会及び研究会開催の一つとして、下記の研究者を候補とする国際講演会開催を計画した。候補者との来日調整の結果、令和6年度に実施を決定した。

第1候補

Tyler Jacks 博士

米国・マサチューセッツ工科大学コッホ統合がん研究所所長

第2候補

Aviv Regev 博士

米国・ジェネンテック社副社長

第3候補

Joan Massagué 博士

米国・メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター  
スローン・ケタリング研究所所長

### 5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業5)

米国がん学会 (AACR) の2023年の年会において、第17回 AACR 高松宮妃記念講演が実施された。講演者の選定は、オンライン会議方式による AACR 選考委員会において行われ、記念講演は次のとおり実施された。なお、同年会には、財団を代表して当財団学術委員の村上善則博士が出席し、記念講演賞の贈呈を行うとともに、高松宮妃殿下並びに財団の紹介を行った。

講演者：Robert D. Schreiber 博士  
          米国・ワシントン大学医学部がん研究所教授  
演題：治療により誘導されるがんへの免疫応答に対する新しい洞察  
講演日：令和5年4月17日（月）  
会場：米国・フロリダ州オーランド  
          オレンジカウンティコンベンションセンター

Schreiber 博士に対し記念の楯及び副賞1万ドルを贈呈した。

#### 6. 機関誌「CANCER」の発刊（定款第4条第1項第5号）

令和5年度（第54号）機関誌CANCERを次のとおり発刊した。

発行日：令和5年7月25日（火）  
発行部数：700部

## 第3章 管理事項

### 1. 会議等に関する事項

(1) 令和5年度第1回理事会（通常）

開催日：令和5年6月1日（木）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事8名（総数8名）・監事2名（総数2名）・顧問1名（総数3名）

議案：① 令和4年度事業報告及び決算について

② 令和5年度第1回評議員会（定時）の開催について

③ 諸規程の変更について

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(2) 令和5年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和5年6月16日（金）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員9名（総数13名）

理事長

報告事項：令和4年度事業報告及び決算の承認について

理事長より、令和4年度事業報告及び決算について報告が行われ、

評議員全員から承認を得た。

(3) 令和5年度第2回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：令和5年度第2回評議員会（臨時）の開催について

（令和5年10月6日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事8名全員から同意の意思表示を、また監

事 2 名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 46 条第 2 項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和 5 年 10 月 13 日（金）

(4) 令和 5 年度第 3 回理事会（臨時）

開催日：令和 5 年 11 月 29 日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：理事 7 名（総数 8 名）・監事 2 名（総数 2 名）・顧問 2 名（総数 3 名）

議案：① 令和 6 年度の主要事業について

② 理事の新任候補について

③ 令和 5 年度第 3 回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された 3 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第 33 条第 4 項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(5) 令和 5 年度第 2 回評議員会（臨時）

開催日：令和 5 年 11 月 29 日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：評議員 11 名（総数 13 名）

理事長

議案：① 理事の選任について

審議結果：提案された 1 件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

(6) 令和 5 年度第 1 回学術委員会

開催日：令和 5 年 12 月 5 日（火）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内 1-1-1）

出席者：学術委員 10 名（総数 10 名）

理事長

- 議 案：① 令和 5 年度研究助成金受領候補者の審査、選考について
- ② 令和 5 年度学術賞候補者の審査、選考について
- ③ 令和 6 年度（第 41 回）国際講演会の講演者決定について
- ④ 令和 6 年度（第 18 回）中原記念講演受賞者の決定について
- ⑤ 令和 7 年度（第 53 回）国際シンポジウムのテーマ、組織委員長の決定について

- 審議結果：① 185 名の申請者の内、第 5 章・附属明細書・表 1 に記載の 38 名が選考された。
- ② 13 件 12 名の候補者の内、第 5 章・附属明細書・表 2 に記載の 2 名が選考された。
- ③ 令和 5 年度国際シンポジウムの演者で組織委員である Allan Balmain 博士（米国・カリフォルニア大学サンフランシスコ校ヘレン・ディラー・ファミリー総合がんセンター教授）を第一候補、Omar Abdel-Wahab 博士（米国・スローン・ケタリング記念がんセンター教授）を第二候補、Napoleone Ferrara 博士（米国・カリフォルニア大学サンディエゴ医療センター教授）を第三候補とすることを決定した。開催場所及び時期については、講演者との調整によることとした。
- ④ 第 52 回国際シンポジウムの佐谷秀行組織委員長から推薦のあった Frank McCormick 博士（米国・UCSF ヘレン ディラー ファミリー総合がんセンター教授）が受賞者に選考された。
- ⑤ 学術委員の提案、審議によりテーマを「進化するがん免疫」とし、組織委員長として西川博嘉博士（国立がん研究センター研究所 腫瘍免疫研究分野分野長）が選考された。

(7) 令和 5 年度第 4 回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

- 提案事項：① 令和 5 年度研究助成金受領者の決定について
- ② 令和 5 年度学術賞受賞者の決定について
- ③ 令和 6 年度(第 41 回)国際講演会の実施について
- ④ 令和 6 年度国際シンポジウム助成について
- (令和 5 年 12 月 7 日（木）提案書発送)

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事 9 名全員から同意の意思表示を、また監事 2 名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 46 条第 2 項の

規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和5年12月15日（金）

(8) 令和5年度第5回理事会（通常）

開催日：令和6年3月13日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：理事9名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問0名（総数3名）

議案：① 令和6年度事業計画について  
② 令和6年度収支予算について  
③ 令和6年度資金調達及び設備投資の見込みについて  
④ 次期学術委員の選任について  
⑤ 顧問の選任について  
⑥ 役員、評議員及び顧問の報酬等並びに費用に関する規程  
の変更について

審議結果：提案された6件の議案につき、審議の結果、第1号議案から第5号議案まで異議なく承認可決された。第6号議案については、理事長並びに常務理事の報酬額、非常勤役員・評議員等が会議に出席の都度支給される報酬額の増額変更並びに関連する規定の変更が否決された。

(9) 令和5年度第3回評議員会（臨時）

開催日：令和6年3月13日（水）

開催場所：パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内1-1-1）

出席者：評議員11名（総数13名）

理事長

議案：① 令和6年度事業計画について  
② 令和6年度収支予算について  
③ 令和6年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、評議員会に先立って開催された第5回理事会で第6号議案が否決されたため、第6号議案可決を前提として、役員等

の報酬増額を組み入れて策定した収支予算案は不適切であり、当該評議員会での議案として審議の対象にはできないと判断された。その結果、役員等の報酬額を現行額に戻して、令和6年度収支予算案を組み直し、改めていずれの議案も理事会での決議承認、その後評議員会での決議承認を得ることとなった。

(10) 令和5年度第6回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案理由：令和5年度第5回理事会において第6号議案が否決され、当該議案の可決を前提に作成された収支予算案は、令和5年度第3回評議員会において審議の対象にはできない判断となり、収支予算の修正を行った上で改めて事業計画、資金調達及び設備投資の見込みについての議案と合わせ、理事会での決議承認、その後評議員会での決議承認を得ることとなった。

提案事項：① 令和6年度事業計画について  
② 令和6年度収支予算について  
③ 令和6年度資金調達及び設備投資の見込みについて

(令和6年3月14日（木）提案書発送)

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事9名全員から同意の意思表示を、また監事2名全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和6年3月19日（火）

(11) 令和5年度第4回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案理由：上記令和5年度第6回理事会に記載の提案理由と同様であり、収支予算の修正を行った上で改めて事業計画、資金調達及び設備投資の見込みについての議案と合わせ理事会での決議承認を得たので、下記のとおり評議員会での決議承認を得ることとなった。

提案事項：① 令和6年度事業計画について  
② 令和6年度収支予算について

③ 令和6年度資金調達及び設備投資の見込みについて

(令和6年3月19日(火)提案書発送)

提案結果：理事が、評議員会の目的である上記事項につき評議員の全員に提案し、同提案につき、書面により、評議員13名全員から同意の意思表示を得たので、定款第27条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：令和6年3月26日(火)

## 2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| (1) 令和4年度事業報告等の提出  | 令和5年6月29日(木)  |
| (2) 変更の届出(理事の1名増員) | 令和5年12月27日(水) |
| (3) 令和6年度事業計画書等の提出 | 令和6年3月28日(木)  |

## 3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。

この情報連絡に関し、令和5年度に対応した事項はない。

## 第4章 受取寄附金に関する事項

当財団の公益目的事業は、経常収益を構成する基本財産運用益、特定資産運用益、受取寄附金、雑収益で運営されている。受取寄附金は、高松宮妃殿下が関係された様々な法人から毎年お届けいただく寄附金、妃殿下と世代を超えて何らかのご縁の続く多くの皆様からの継続的なご寄附、妃殿下の「がん撲滅」の悲願に賛同された日本中の皆様からのご寄附などであり、経常収益の重要な位置を占める。

当事業年度に受け入れた寄附金は以下のとおりである。

- ・法人                    40 件   18,997,872 円
- ・個人                    56 件   17,376,000 円
  
- ・法人個人合計        96 件   36,373,872 円

第1章の概況に記載のとおり、当年度は、個人の方からの大口の寄附（10,000千円）があったことから寄附金合計は、当初予算の27,000千円を大きく上回った。

## 第5章 附属明細書

表1 令和5年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の研究助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所属・職	研究題目
石井 秀始	大阪大学 大学院医学系研究科 疾患データサイエンス学 特任教授(常勤)	難治性消化器がん単一細胞解析データを土台とした安全で有効な「mRNA CAR-T細胞療法」の実現
石川 秀樹	京都府立医科大学 分子標的予防医学 特任教授	アスピリンの大腸癌予防効果に影響を与える要因の解析
板橋 耕太	国立がん研究センター 免疫トランスレーショナル リサーチ分野 研究員	腫瘍の抗原提示能に着目した免疫疲弊機構の解明
伊藤 貴浩	京都大学 医生物学研究所 がん・幹細胞シグナル分野 教授	分子標的薬への治療抵抗性と悪性化に共通するがん細胞の代謝形質とその機能に関する研究
今村 健志	愛媛大学 大学院医学系研究科 分子病態医学講座 教授	革新的生体EMTイメージングシステムの開発とがん転移の時空間的多様性の理解
植田 航希	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座 講師	Non-genetic因子に着目した前白血病幹細胞から白血病幹細胞への進化機構の解明
大澤 志津江	名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻遺伝学グループ 教授	“貪食”マクロファージが引き起こす非自律的がん促進とその遺伝的基盤
大島 浩子	金沢大学 がん進展制御研究所 腫瘍遺伝学研究分野 准教授	線維性微小環境と遺伝子変異の相互作用による胆管がん発生機構の解明
荻野 崇之	大阪大学 大学院医学系研究科 消化器外科 寄附講座准教授	炎症性腸疾患関連癌における自然リンパ球を介した発癌メカニズムの解明
川崎 善博	関西医科大学 附属光免疫医学研究所 腫瘍病理学部門 准教授	大腸癌におけるWnt-cMycシグナル軸を介した腫瘍増殖促進メカニズムの解析
河本 新平	大阪大学 微生物病研究所 准教授	大腸癌の加齢性発癌に関与する腸内細菌の特定とその役割の解明

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
菊 繁 吉 謙	九州大学病院 遺伝子細胞療法部 講師	ヒト白血病幹細胞特異的窒素代謝制御メカニズムの解明と治療モデルの確立
河 野 晋	金沢大学 がん進展制御研究所 助教	脂質リモデリングによる腫瘍内微小環境ホット化治療法の開発
合 山 進	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先進分子腫瘍学分野 教授	TP53変異型赤白血病における腫瘍免疫抑制因子の同定
小 坂 威 雄	慶應義塾大学 医学部泌尿器科学教室 専任講師	希少型前立腺導管癌オルガノイドに立脚したシングルセル解析と個別化医療の確立
後 藤 典 子	金沢大学 がん進展制御研究所 分子病態研究分野 教授	ミトコンドリア1炭素代謝酵素による乳がん及び肺転移微小環境制御の解明
塩 田 真 己	九州大学病院 泌尿器・前立腺・腎臓・副腎 外科 診療准教授	網羅的定量プロテオミクスによる前立腺癌の治療抵抗性に関する代謝経路の解明と治療応用
水 津 太	香川大学 医学部腫瘍病理学 准教授	老化細胞のアポトーシス誘発による膵癌予防機構の解明
田 中 美 和	がん研究会がん研究所 がんエピゲノムプロジェクト 主任研究員	肉腫の融合遺伝子を標的とするエピゲノム編集治療の開発
谷 内 一 郎	理化学研究所 免疫転写制御研究チーム チームリーダー	RUNX3機能制御による癌免疫増強法の開発
谷 口 浩 二	北海道大学 大学院医学研究院 教授	炎症記憶によるがん化メカニズムの解明
仲 島 由 佳	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター 免疫機構研究部 研究員	T細胞老化を介したがん免疫治療耐性メカニズムの解明と治療法の開発
永 野 修	藤田医科大学 がん医療研究センター 教授	転移性胃がんマウスモデルを用いた新規フェロトーシス誘導治療と免疫チェックポイント薬の併用効果の検討
中 村 貴 紀	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 特定講師	がん特有の多極分裂回避機構を標的とする抗がん剤の創出
西 辻 和 親	和歌山県立医科大学 医学部生化学講座 准教授	p53凝集体の cell-autonomous および non cell-autonomous な影響の解析とがん治療への応用

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
西 村 友 美	京都大学 大学院医学研究科乳腺外科学 客員研究員	胚細胞系列BRCA1/2変異保有者における乳癌発症メカニズムの解明
西 山 功 一	宮崎大学 医学部機能制御学講座 血管動態生化学分野 教授	がんを制圧する，生体力学的機構を利用した新たな血管新生制御法の開発
平 田 祐 介	東北大学 大学院薬学研究科 衛生化学分野 助教	ヒト特異的ながん細胞フェロトーシス感受性の制御機構の理解に基づく新規がん治療戦略の開発
細 野 祥 之	岡山大学 学術研究院医歯薬学域 薬理学分野 教授	癌・生殖細胞ネットワーク内にもみ存在する、新たな細胞死誘導経路を標的とした新規抗がん剤開発
松 井 啓 隆	国立がん研究センター 中央病院臨床検査科 科長	RNAヘリケース変異によるR-loopの蓄積を介した骨髄性造血器腫瘍発症機序の解明
丸 山 健 太	愛知医科大学 医学部薬理学講座 教授	大腸癌生物学の新境地開拓
宮 林 弘 至	東京大学医学部附属病院 消化器内科 助教	膵癌分子サブタイプ basal-like 型における CD109 の役割の解明と新規治療法の開発
武 藤 朋 也	国立がん研究センター研究所 がん RNA 研究分野 主任研究員	炎症シグナル不応化メカニズムから迫る骨髄異形成症候群の病態解明と治療応用
森 下 英 晃	九州大学 大学院医学研究院 生体機能学分野 教授	選択的オートファジーによる腫瘍形成抑制効果の分子基盤の解明
諸 石 寿 朗	熊本大学 大学院生命科学部 (医学系) 教授	腫瘍微小環境においてがん細胞の共生現象をもたらす分子基盤の解明
安 原 崇 哲	京都大学 大学院生命科学部 教授	染色体転座による血液腫瘍発生原理の解明
谷 内 田 真 一	大阪大学 大学院医学系研究科医学専攻 がんゲノム情報学 教授	大腸腫瘍発症予防を見据えた未病状態の解明に関する研究
ROBBE PAULINE	理化学研究所 生命医科学研究センター トランスクリプトーム研究 チーム 研究員	Explore genomic and immunological dysfunction in leukemia aggravated by recurrent infections

(五十音順 敬称略)

表2 令和5年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1件当たり500万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
高 橋 隆	愛知県がんセンター 名誉総長	ヒト肺がんの分子病態の多面的解明
土 岐 祐 一 郎	大阪大学大学院 医学系研究科 消化器研究科外科 教授	高度進行食道がんに対する根治を目指した集学的治療の開発

(五十音順 敬称略)